

会 議 録

会 議 名	第30回野田市市民活動支援センター運営協議会
議 題	(1) 市民活動支援センターの登録状況について (2) 市民活動支援センターの利用状況について (3) ミニ学習会及び県出前講座について (4) 野田夏まつり踊り七夕について (5) 市民活動支援センター登録団体関与度調査について
日 時	平成30年7月23日(月) 午後2時から午後4時まで
場 所	野田市役所 8階旧レストラン会議室
出 席 委 員	会 長 竹澤 勇司 副会長 立山 喜弘 委 員 酒井 幸子、武智 多恵子、岩井 勝治、 北倉 恵美子、渡邊 勝男
欠 席 委 員	委 員 加藤 満子
事 務 局 等	副市長 今村 繁 市民生活部長 牛島 修二 市民生活課長 大塚 盛也 市民生活課長補佐 相塚 恒雄 市民活動支援センター長 釜田 正雄 市民生活課コミュニティ係長 小川 光博 コーディネーター 荒井ハツヨ、嶋田 由花、辻 朝子 支援補助員 向佐 美知子
議 事	第30回野田市市民活動支援センター運営協議会の会議の概要は、次のとおりである。
1 開会	小川係長 平成30年7月23日午後2時、開会を宣言した。会議の成立について報告した。 会議録作成のため、録音をすることについて了解を得た。傍聴人の申出がなかったことを報告した。

2 副市長挨拶

今村副市長

猛暑が続いており、私も疲れがみだが、皆さん健康には十分留意していただきたい。また、踊り七夕も相当な暑さの中で開かれるようになると思う。十分健康には留意していただきたい。

今日の議題として、市民活動支援センター登録団体の関与度調査というものも議題となっている。これまでの市民活動支援センターの活動や、それに関与する団体等の傾向、これまでのいろいろな参加の状況等をまとめてあり、今後のセンターの活動の方向性を決めていく上で重要な資料だと思う。皆さんの^{きたん}忌憚のない意見を伺いたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

3 議事

(1) 市民活動支援センターの登録状況について

(資料(1)-1、(1)-2)

議長(竹澤会長)

議題(1)について説明を求めた。

釜田センター長

議題(1)「市民活動支援センターの登録状況について」を説明した。

議長(竹澤会長)

議題(1)について、委員に意見を求めた。

《意見無し》

竹澤会長

それでは、私から質問したい。登録団体分野別内訳を確認すると、19分野の内、災害支援など5分野について登録団体ゼロということが確認できる。この分野の共通点は何かと考えると、行政との協働がなければ活動自体が行うことが難しいのではないかと個人的に感じる。この辺を皆さん方の意見を伺いたい。やはりゼロというのはさみしいので、本来の意味の市の団体活動の活性化というか、前進していくためには各分野の一つや二つは登録がほしいと思うので、皆さんのご意見を伺いたい。

釜田センター長

それでは事務局の方から一つ。ここに書いてある1から19までの活動分類表については、NPO法に基づく活動分類を準拠して作っている。現在121団体が登録しているが、NPOについては22団体と少ない状況で、基本的にはボランティア団体

や広くまちづくりを行う市民団体、任意の団体がほとんどなので専門的な分野については少ない。他市もそんなに多くはないと思うが、どういうことでこの分類を使っているかの説明です。

竹澤会長

あと一つ、この5年間、登録団体にNPOが増えない要因として、NPO自体が増えていないということもあるが、何か要因があるのではないか。野田市の中で環境がまだまだ整っていないとか。活動をする立場になると取り組みづらいつか、その辺を何か考えていかななくてはいけないと思うがいかがか。

荒井コーディネーター

NPOになりたいという団体は登録団体の中にいくつかあった。しかし、なかなか思いはあるが、人が集まらないとかいうことも含めて、法人格を持つだけの組織力がないといった団体が二つくらいある。確かにNPOは法人実務がたくさんあるので、そこまでやれる組織力を持たないと難しいと感じている。

武智委員

私は、NPOの社会が来るのではないかと非常に大きく夢に抱いた時がある。野田文化研究会はNPOだが、長い間子ども支援ということで、子ども劇場というのを40年ほど前に立ち上げてやってきた時は、会員制で単なるボランティア的なやり方では、本当に多くの子どもたちに行き届かないということがわかってきて、ものすごく大きな組織にはなったが、そこでNPOを勉強しようということで勉強して。阪神淡路大震災の時のあの教訓が、一挙に国がNPOを作ろうという風になったと思う。その時の喜びがすごく大きくて、本当にこれからそういう社会が来るんだなあって。行政の方達や企業の方達だけが社会的なことを心配するのではなくて、一人一人が社会の課題にとって皆が新鮮に考えるところがあつていいのではないかという大変大きな夢を持っていた。それを私は行政が主導していくのではないかという期待を持っていたが、なかなかうまくいかない。経済状況であるとか、法人格を取ると一般市民ではなかなか実務をこなせないというのも今の話で分かったが、ここで諦めないで一緒にNPOの社会というか、一緒になって市民も課題に取り組んでいけるようなものにしていきたいということで、私はこの席にちょっとだけ残っていようと思った。是非NPOの社会は広げていきたいと思う。

渡邊委員

私のところは法人格を取ってやっているが、活動の仕方で法人の私たちから一緒に活動しようとボランティアの個人の方に話しかけると、いや、私は自分のペースで、

自分のできる形で参加しますからと。以前100人くらいの方に文書を送ったことがある。それは何かというと一緒に社協の方たちとやったボランティアの方ですが、参加の形ってそういう方もいる。いろんな形があると思うので、一方でNPOとか一般社団でとか、いろんな法人格を取るにしろ、自分たちの活動の仕方ですれが一番良いのか探りながら活動している団体もある。だからどんな形であれ、間口があって、その間口でつなげられる環境があるというのが一番大事だと思う。

今村副市長

市側で会長の問題提起に対して、市民活動支援センターの条例の中で、市民活動支援センターは次に掲げる事業を行うということで、第1号で市民活動団体の基礎的情報を把握し、行政各部局との連携を図り、必要とする支援と結び付けることというものがある。今、センターの方は市民活動団体の情報は把握しているが、肝心の行政各部局がそれに対するアンテナを張っていない。市民との協働というのを市では掲げているが、どうも受け身になっている。いろいろな市民と各部局は接触するわけだから、その中から一緒にやろうとNPO法人を立ち上げるとか、そういう空気を作っていかなければいけないと会長の問題提起に対して思ったので、センター長の方に他の市で特に登録のない分野等について、どういう活動をしている団体がいるのかをまず調査してもらった上で行政各部局に考えさせてみたいと思う。

議長（竹澤会長）

他に意見がなければ議題（1）については了承でよいか問うた。

《異議無し⇒了承》

（2）市民活動支援センターの利用状況について

（資料（2）－1、（2）－2）

議長（竹澤会長）

議題（2）について説明を求めた。

釜田センター長

議題（2）「市民活動支援センターの利用状況について」を説明した。

議長（竹澤会長）

議題（2）について、委員に意見を求めた。

《意見無し》

竹澤会長

相談内容の7番目のその他で、倉庫の借用という項目があるが、具体的にどうい

ことか伺いたい。

釜田センター長

倉庫については、市民活動団体の困りごとの一つに上げられている備品等の倉庫というのが課題としてある。市内の方から使わなくなった借家とか倉庫とか、市民活動団体で使ってもらってどうですかと、こちらから声を掛けたものもあるが、そういった問合せに対しての相談である。そういう相談があったので、該当するようなところに何団体か声掛けして利用について検討してもらうが、なかなかお互いの利用条件とか、借りる側の条件だが、総合福祉会館を中心に活動しているとなると、ここから駅の間とか市役所の周辺という要望が非常に強く、それからどうしても車を使うので、駐車場が広くないといけないというような課題があって、紹介はするが、結び付きになっていないというのが現状となっている。

議長（竹澤会長）

議題（２）について、ほかに意見がなければ了承で良いか問うた。

《異議無し⇒了承》

（３）ミニ学習会及び県出前講座について

（資料（３）－１、（３）－２）

議長（竹澤会長）

議題（３）について説明を求めた。

荒井コーディネーター

議題（３）「ミニ学習会①助成金基礎講座について」を説明した。

辻コーディネーター

議題（３）「ミニ学習会②初心者パソコン連続３回講座について及び県出前講座について」を説明した。

議長（竹澤会長）

議題（３）について委員に意見を求めた。

立山副会長

パソコン講座は素晴らしいと思う。二人でやられているが、時間的にはこれで一杯なのか。もしもニーズがあれば４回くらいにするとか、そういう気概はあるか。

向佐支援補助員

パソコンですが、今３回で実施していて、実際にやってみると２回目くらいまでは皆さんやりたいことが一致しているが、３回目になるとレベルの差がついてくるとい

うか、具体的に行いたいことがそれぞれ違うというのが見えてきてしまうので、4回実施するというよりは、そのタイミングでは個別に対応して教えていくという方がいいのではないかと考えている。

立山副会長

ワンランクアップのパソコン講座というのを考えているようだが、それも大事だと思うが、今の初心者コースというのも結構良いと思うので、できれば続けていただきたい。

酒井委員

私はミニ学習会に参加させていただき、とても助かった。次のパソコン講座も参加したいと思う。

渡邊委員

パソコンもそうだが、最近スマホを皆さん使う。スマホで持ち歩きできるので、スマホの講座は人気あるのではないと思う。スマホをやって、パソコンと一緒に扱うこともできるし、実際に皆さん持っていて使いきれていないのはもったいないし、あとはセキュリティとか、こういうことをやるともっと身近になると感じた。

竹澤会長

初心者のパソコン指導に当たって、初心者の知りたいことや、やりたいこととか共通の傾向はあるか。

向佐支援補助員

大体共通なのは、根本的なところで自分がパソコンを使ったら壊れるのではないかというもの。まず、その不安を拭いてあげること。それと一番団体に直結する活動に早く利用したい。会計報告をしたいとか。ほかの講座だとパソコンは使えるようになるが、今一つ団体の活動に直接的に結び付かないという方も多そうなので、そこを支援センターらしくという意味でも直結するような形のものをお教えしていければと感じている。

酒井委員

お願いがあります。講座を受けていて、支援センターはインターネットへの接続が登録団体用の2台しかない。私は講座を受けるために自分のパソコンを持っていったが、インターネットにつなげない。この時代、喫茶店でもどこでもWi-Fiが入っているので、市役所でも今後のことを考えてWi-Fiを入れていただくようお願いします。

岩井委員

詳細なマニュアルを作っていたいただいたのは良かったと思う。私も実はパソコンを会社にいた時に分からないことだけを聞きながら教わって、教わったことを自分でマニュアルを作っていたが、それでも後で分からなくなってしまう。

聞いた時には分かっているけど、後で分からなくなってしまうので、詳しくマニュアルを作っていたいただいたのは良かったと思う。

釜田センター長

一つ追加ですが、パソコンつながりで、今回登録団体のアンケートをやっているが、意見要望というものを、できるだけすぐやれるものは対応していこうという中で、パソコン講座の内容についてもホームページを作りたいので講座を開いてほしいという要望があった。これについてもモデルケースとして、作りたいという団体の方に来ていただいて、センターの担当の方から例えば有料だとこんな物ができる、無料だとこんな程度ですということ、最終的になかなか経費は掛けられない。でも、手間は掛けられるという話があったので、無料の物で登録団体121の内、三つの団体が使っているソフトを使って、その方は2、3日で作成した。団体は「野田マジッククラブ」ですが、是非ホームページをご覧ください。代表の方が手作りで作ったということで、無料なので経費も掛からないので、団体に帰って説明をしたら大変喜ばれたそうです。やはりお金を掛けるというのはなかなか難しいというところで、これが少しずつ広がっていけば講座を開くということで、つうしん等を使ってPRしていきたい。

議長(竹澤会長)

議題(3)についてほかに意見がなければ了承で良いか問うた。

《異議無し⇒了承》

(4) 野田夏まつり踊り七夕について

(資料(4))

議長(竹澤会長)

議題(4)について説明を求めた。

釜田センター長

議題(4)「野田夏まつり踊り七夕について」を説明した。

竹澤会長

議題(4)について委員に意見を求めた。

立山副会長

野田市全体の集まりの場の一つとして実施されるということで、まちを上げてという事で良いのではないか。

竹澤会長

よさこい踊りというのはよく分からないが、何種類かあるのか。

荒井コーディネーター

最初は10何年か前にロックソーランというのがあって、そこからスタートしたと思うが、ロックソーランは北海道のソーラン節がロック調になったものだが、よさこいは高知のよさこい踊りから引き継がれてこちらの方に来ているということで、野田でもよさこいを踊っている団体が今7団体ある。それを去年、協議会を作って、自治会にもお世話になりながら夢ロードで行った。踊りもそれぞれの団体で特徴が出る。きれいに踊るグループがあったり、元気よく踊るグループがあったり、年齢も親子だったり、シニアだったり様々で、衣装もそれぞれで特徴があって美しいので、是非おいでください。

竹澤会長

東京理科大学のY o s a k o i ソーラン部ですか、この大学関係の方とはどのような形で関わっているのか。

荒井コーディネーター

以前から野田のよさこいには理科大が参加されている。それでつながりがあったので。こちらに来てくださるのは20人くらいですが、100人から150人くらいメンバーがいらっしゃる。ただ、毎年この時期は試験中らしく、20名くらいになってしまって申し訳ないと仰っていた。

理科大生にはほかにも元気アップふえすたにも参加いただいている。

議長（竹澤会長）

議題（4）についてはほかに意見がなければ了承で良いか各委員に問うた。

《異議無し⇒了承》

（5）市民活動支援センター登録団体関与度調査について

（資料（5））

議長（竹澤会長）

議題（5）について説明を求めた。

釜田センター長

議題（5）「市民活動支援センター登録団体関与度調査について」を説明した。

議長（竹澤会長）

議題（５）について委員に意見を求めた。

立山副会長

約１２０団体があって、参加していない団体が１８．６％あって、１回から４回というのも合わせると５０％近くがある意味積極的に利用していない数字になっているが、理由は登録の目的もあったのだろうが、基本的にもっと分析してもらって、人数が少なくて高齢化してしまったとか、登録したが利用する必要がないとか、そういうところがあるのだろうと思う。なぜそういうところがあるのか。利用があった方が良いのか悪いのかというところと利用してもらった方が良いわけですよ。ただ利用する必要がないと言われてしまうと何のために登録したのか。ただ会場を借りるためだけに登録したのか。その辺の分析をこれからよろしくお願ひしたい。

釜田センター長

今、市民活動団体へのアンケートを登録１２１団体全てにお願いしている。その中で聞いている項目に団体の活動内容と課題という項目があり、どこで活動していますかとか、会員は増えているか減っているかとか、市民活動支援センターの利用目的は何かとかいうことをアンケートで聞いている。

これらをまとめて、今回の関与度調査と合わせて個々の登録団体の抱えている課題を明確にして、できることはなるべく早く対応したい。

アンケートの中で、市の補助金についても設問があって、制度を知っているかとか、申請したことがあるかとか、今後申請の予定があるかというのも聞いている。

申請したいという団体には、６月の助成金講座の時に声掛けをして来てもらうとか、個々にこちらからもお誘いをしている。

あくまでも登録団体のニーズに合わせた参加状況、ですから活動場所の提供ということが一つの大きな目的でも良いと思う。センターに登録すれば総合福祉会館の利用が可能になるので。今回、ここにはないケースとしてフリースペースとか、そちらがなかった。総合福祉会館の利用という項目を入れるともっと増えると思う。今後どのようにデータを取っていくかにもよるが、５年分を半年くらいかけて検証したい。４月以降のデータの取り方も工夫しているので、その中で登録団体の課題を解決する支援ができるようにしたいと思っている。助成金を中心にやってきたが、助成金をもらうためには、もらうためのしっかりとした考え方、目標、体制、自己資金等、いろいろとセットになってということなので、とりあえずは窓口として助成金をメインにやったが、今後はもっと違う切り口で考えていきたい。

立山副会長

市民活動をする側が幽霊会員では困るので、実際に何らかの形でみんなとできるような仕組みが良いのかなと思う。そういう方向にしてほしい。

北倉委員

この会議が、野田市の市民活動が盛り上がってほしいという命題で動いている会議なので、登録団体数はいかようにも増えるのではないかなと思う。いっぱいが増えたらそれをどう見ていくかというのがまた大変な作業になっていく。それでたくさんになったところでどんな形であれ活用してもらえれば良い。それが市民の利益になることなので、そういう風に応援していけるものでありたいと思っている。だから例えば市民の要求がどこにあるかというのをコーディネーターの方はアンテナを高く持って把握していると思う。例えばこんな調査みたいなものが若いママ、パパから出たら良いと思うのが、野田市の授乳室状況はどうなっているのか。スーパーとか総合福祉会館の中の施設とか、いろいろどういう風になっているのかという。そうすると若い世代たちが関心を持ってくれるのではないかな。そして、またそれが登録団体として登録したとすると、私たちは市民活動支援センター登録団体ですってここに書くと、なるほど市民活動支援センターに登録している団体なんだということで、市民活動支援センターの知名度が上がってくる。そんな風に市民にアピールしていくっていう方法もある。

渡邊委員

非常に良いと思うのは二つある。一つは、1年ごとに更新するということは、例えば既になくなっていたり、活動していない団体も更新することでリセットが掛かるので、もう継続しないとか、新しく始めますとか、登録する団体の鮮度が良いというのがある。もう一つは、つい先日、私の受けた相談で、こういうことをやりたいが、どうすれば市の中で仲間を集えるかという相談があった。ですからまさしく、支援センターに登録すればいいですよと。結構シャッフルできて情報の発信、そして吸収という形でセンターの活動が活きるのではないかな。

それと、話は変わるが関与度調査の8番と9番はこれからどうなるのか。いわゆる交流の形ということで、交流会というのを今までやっていたと。私のイメージでは9番の交流イベントに形が変わっていったのかなと思う。恐らくこのままだと次回にまた8番と9番が残るのかなと思ったので、可能であればまとめた方が良いのではないかなと思う。

竹澤会長

登録団体の素朴な希望というのは、自分の方から求めていなくても登録しただけで得になるようなことはないのかなと。それが情報であり、こういう市からの発信であり。そういう面は皆さん感じていると思う。ですからセンターが取り組んできた様々なデータを見ていくと、大体推移が上がってきている。ただ、それに伴って少し心配なのは、登録団体の参加状況が徐々に上がっていった場合、センターのコーディネーターの負担が非常に増えるのかなと。その辺は体制の強化とか、創意工夫で改善をしながら、本来であれば負担があるが、やり方の工夫でまとめていっていると個人的には感じると思うところだが、頑張っていけばいくほど、どんどん増加していくということで、その辺の対応が必要と思うがいかがか。

釜田センター長

体制の強化については、28年度からガラッと変えてということで常駐する職員も増やしている。その中で自分は3年目となるが、2年を振り返って3年目をどうするか考え、まず合理化というか、今いる人でどれだけやれるかという中で、例えば登録申請をする情報をホームページにアップする、さらには冊子にする。それがセンターの業務と市民生活課が27年度までは二極化していたので、統一的な運営ができなかった。30年度に向けて登録申請書の書式を変えて、活動内容をもっとアピールできるようにして、それをホームページに載せると。そしてホームページに載せたものを冊子としても発行すると。薄かった紹介冊子が今は大分厚くなって、今年はさらにステップアップを図って写真を入れていこうと。

登録する申請の状況から、登録してホームページ、冊子というように一連の作業として、登録団体の負担の軽減と合わせて、連携した作業とすることで職員の負担も減らした。それとセンターのホームページの内容も少し変えようと考えている。

登録すると、ホームページに活動内容が写真入りで掲載され、冊子にもなる。ふえすたに参加すれば、ふえすたに参加した団体用の紹介冊子も作りますと。その辺は直営ですけども。できるだけ今の人数でどこまでできるか分からないが、工夫次第でいろいろできるので、まずはそれをやっていこうと。あともう一つは、関与度調査をやり、今回アンケートを取る。課題となっている今後の体制の中で、市民活動支援センターを今後どうするかという中には、二つの要因と他市の状況を含めて、センターとして本来やらなければいけないこと、それから登録団体が要望してやってほしいこと、その辺のミックスなので、それを今年度やっていこうということで、資料を集めて作っている。

この数字だけ見ると大変だと言うけれども、やり繰りも必要だが、コーディネータ

一も今、半日勤務なので、予定をひと月単位とか3か月単位とかスケジュールを作って、その中で余裕を持ってという話と、運営協議会に出て説明することも大事だし、意見を言うことも大事だし、参加団体からの質問にも答えられるようにもしなければいけないということで、勉強しなければいけないことはたくさんあるが、まずは今の体制でと考えている。

酒井委員

登録団体が増えてきていることは素晴らしいことだが、それを踏まえてこの8階旧レストラン会議室も利用件数が増えている。総合福祉会館を始め、部屋を確保するのはとても大変になっている。いずれレストランを再開するという噂もあるので、その時にここを使っている団体が困らないようにしてほしい。

今村副市長

確かに、市政メール等でもレストランを再開してもらいたいというものも多く来ている。また、市としてここを新たな観光等の拠点として使えないかというようなことも考えているところもあるが、単純にここを他のことに使いますというわけにはいかない。その時には当然代替の所を用意するという一方で、市民活動の足を引っ張るということはないようにと考えている。イオンの活用の話とか、その他いろいろと市民活動について、活動の場を市内のいろいろな所にできないかということで、当初センター開設時に公共施設中心に調べた時は、なかなかないということだったが、民間の施設の有効活用とか、いろいろなことをこれからは考えていかなければいけない。扱いについては、ここはいつから単純に使えませんということではなく、当然、市民活動の障害にならないように考えていく。

それと、先ほどの体制の強化ということで、今の体制で要望に応えられないということになれば、強化も考えていかなければならないと思うが、今、体制として考えているのは、そもそも市民活動支援センターは、NPO法人が運営するのが一番良いだろうということで、ここを立ち上げる時の検討であったのだが、今私が個人的に考えているのは、その方が良いのか、今のような行政が運営する形でも良いのかなというのも少し考えている。それは最初に申し上げたが、他市で委託しているところもあるが、そうするとどうしても行政が丸投げしてしまうので、逆に行政との関わりが薄くなってしまふという面もあるのかなということで、行政各部局との連携ということだが、結局、市民活動、市民との協働ということで、いろいろな形で市民の方たちと一緒にやっていかなければ厳しい財政事情の中、なかなか市民満足度を上げていくのは難しいと思うので、そういう意味でも市民活動支援センターは最終的に目指すところ

はNPO法人による自主運営ということだったが、それで良いのかということも含めて今後議論していただければと。それで、市としても他市の防災とか、災害とかの各分野の団体がどういった活動を行っているかを調べさせた上で、各部局に対して問題提起をしていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

竹澤会長

今、副市長から行く末はNPOへ運営を任せていく方針だったという話があったが、NPO・ボランティアサポートセンターの頃から長い年月を掛けながら話合いをしてきたという経緯がある。そういういろいろなやり方を経て、いろいろな財政の状況を抱えながら、市民との協働、行政との協働を考えた時に、市の方も関わっていくのも一つの考え方だという話があった。この辺も今回は議題になっていないので、次回以降話合いの機会が必ずあると思うので、委員の皆さんにも宿題ということで考えてもらえると有り難い。

NPO団体はどの団体も必ず悩みがあって、それを今コーディネーターの方が来所とか相談という形で対応してくれているが、私がいつも思うのは、話合いとか相談の中でコーディネーターの方がびっくりしたとか、こういう発想もあるのかと感心したような事例等があれば聞きたい。

荒井コーディネーター

相談に来るといのはあまり良い状態ではないというのがあるが、NPO法人ができて20年くらいになるというところで、市内に43くらいのNPO法人があるが、閉めようかなという団体も二つ三つあって、それは自分たちの掲げた目的に社会が沿わなくなったというのもあるが、スタッフが高齢化してやっていけないというのも多い。また、法人格を取ってずっとやっているNPO法人でも任意団体と全く同じ方法でやっている。例えば年に一仕事業年度が終わる頃に県に報告するとか、税務署に報告するとか、法務局に登録をするとかいろいろな実務があるが、そういったことを全く行っていないNPO法人だとか、会計が全く会計基準まで行かなくても、せめて複式簿記でやってほしかったという法人もある。ずっと単式で分からないような会計をしていて、でも活発に活動しているNPO法人があつたりして、相談を受けると様々でびっくりする。どうしてそういう風になってしまうかというのは、実は子ども劇場は県内で連絡会というのを持っていて、その子ども劇場が任意団体から法人格を取る時にいろいろ勉強して、法人格を取った後も学習会をきちんとやった。子ども劇場は学習の場があつたということであまり落ちこぼれない。ただ、その他の法人というのは、野田市内はそうだが、学習の場がなかった。この支援センターができるまでは、

私たちは子ども劇場があったからそこで学習できたが、他の方はどこで勉強していたのか。要するにそういったネットワークが全くなかったというところで、NPO法人取ったけれども任意団体の時と同じ単式簿記で会計をやっているとか、法務局にも申告していないから県民税も市民税も払っていないとか、結果的には減免申請をすれば収益団体ではないので課税されないが、その作業もしていないという状況で言ったらきりが無い。それで野田の中でNPO法人のネットワークを作った方が良いのかとも思う。

釜田センター長

アンケートの結果を見ると、20年前のNPOの法施行前の時点で止まっている団体もある。これは市民活動支援センターの認知度が低いということもあると思うので、もっとPRしていかなければならない。なので、全ての業務について見直しを掛けていて、例えばホームページを見てもらうためにはどうすればいいか。今考えているのは、ホームページやつうしんの内容として、事例を出していこうと。どんな相談があったとか、どんな講座をやっているとか、もっと具体的に。ほかの自治体や野田がやっていないことを今整理しているが、その中で大きくは登録団体向けについてはNPOの方が県の出前講座とか、市民活動団体マネジメント講座に依存して独自の政策を打てていなかった。それと一般市民向けの講座をやっていないというのがある。要するにその講座をやることによって、趣味とかいろいろあるが、いろいろな団体を紹介して会員の拡大をして、市民活動の活性化を図ろうというものが無い。その辺も予算を掛けないとできないことと、予算を掛けなくてもできることがあるので、市民活動支援センターの認知度を上げて、センターに来れば相談にのってもらえるというのを委員の皆さんにもお願いしたいが、我々ももっとアピールしていきたい。その手段として、つうしんもあるし、ホームページもあるし、冊子もあるし、いろいろなイベントもあるし、そういったことにこれから力を入れてやっていきたい。一辺には直らないが、確実に一歩ずつ進めていきたいと思う。

先ほどの良い話の中では、私がセンターに来た時に前の所属は教育委員会の生涯学習部だったが、いつもイベント等に行く時に、皆さんのおかげですと言ってきたのを本当に実感している。市だけでは、市が主催してやることはできないから、地域の皆さん、特に私たちの場合には、生涯学習部の時にはスポーツ団体だし、文化・芸術いろいろな団体がある。その人たちの活動がないと市の行政として成り立たないというのを分かっているから、さらに一歩踏み込んで市民活動団体の中に入った時にこれはすごい。誰かがやれと言っているわけではないのに自発的にやろうという団体がこれ

だけあって、これだけの市民がいるのだから、まだまだセンターも頑張らないといけないと思っているので、よろしくお願ひしたい。

武智委員

市民活動支援センターができた時に一番喜んだのは、市民で活動していた人たちだった。ものすごく大きな期待を持っていたと私は思う。市長からも呼ばれて、こういう組織をどうしても作っていかねばならないということで、その時に本当にやっと市民の活動を支援してくれるセンターができるということで、すごく元気にスタートしたような気がする。ですから、最初の交流会というのは、非常に難しいけど、自由に自分たちの言いたいことが言えたというのは、私はとても大事なことだったと思う。今の場合だと行政の方がいろいろ用意して、こうした方が良いのではないかという方向でやってきて、やっとそこにたどり着いたかなと思う。体制として固まったと思う。市民だと夢は持つけどなかなか形にしていくのは難しい。やりたくて仕方がないと思うが、それは本当に模索しながらやっていると思うので、そこに支援センターというのができたというところに期待を持っているというのは、本当に広げていきたいと思う。そのためには、活動している団体の意見、これをたくさん聞いて欲しいと思う。今度はアンケートも取ったので、そういう問題がいくつも出てくると思うが、まず聞いてあげたいと思う。どういう夢を持って、どういうことをやっていきたいのかということ、たくさんまずは聞いてほしいと思う。そういう市民の声を一つの要求にしながら、今やろうとするセンターの形が、私は非常にいい形になってきたと感じているので、そこに市民の生の声が入ってくることによって非常にいい形ができてくるのではないかという、今度のアンケートを通して。そういう風を感じる。ただ、これからの動きがとても重要になると思う。

岩井委員

先ほどの荒井コーディネーターの話の関係だが、何もしていないNPO法人というのは、結局はNPO法人ではなくなってしまうということか。

荒井コーディネーター

一応事業報告は出しているのですが、そういうことではないが中身がどうかということです。

岩井委員

なるほど。いや、NPOになると煩わしいとか、悪い噂が広がると困ると思ったので。それで、何らかの形で手は差し伸べられるのか。

荒井コーディネーター

個別に相談に乗っている。

釜田センター長

先ほど話したのは過去の話で、それを是正して一年ほど掛かっている。県の出前講座の要望でNPOの悩みとか課題が多いので、NPO法人の認証を受けてからの諸手続について、全般的にそういう講座ができないか県と調整しようと考えている。

竹澤会長

NPO法人の方が悩んでいる一つの要因として、NPOになった良さというものが理解できていないということもあると思う。NPOとボランティアの違いというものを基本的にセンターで指導してもらえれば、ずいぶん気持ちが違う。

立山副会長

確かに市民活動とボランティアはちょっとニュアンスが違う。我々の団体はボランティア活動の方で、NPOとは立場が違う。市民活動ということでは共通だが、NPOと言われてもピンと来ない。

釜田センター長

この前、講座でNPOができて20年というのがあるって、無償と非営利という区別がある。ボランティアは無償で、NPOは無償ではなく非営利で、それが一番分かりやすいかと思う。それをつうしんやホームページ等をとおして分かりやすく説明したいと考えている。それと、先ほどあった会議室とか、バスの利用とか、備品のある場所とか、市民活動をする上で必要なものが、市内のどこに何があるかというのを整理して、意外と知らない方も多いので案内したい。

竹澤会長

NPO団体はいろいろ企画をして、一般のボランティアの方の参加を促す立場だと思ふ。NPOは団体だが、ボランティアは個人の集まりという形で捉えられている。NPOは収益事業ができ、きちんと税金を払うことをやれば、きちんと収益も上がる。ただ、その収益を個人で分配してはいけない。きちんと活動に充ててくださいという取り決めがあるので、それらを理解すれば、もうちょっと自分たちがせっかくNPOにしたのだから、少しは見方を変えて前向きに取り組んでいける気がするのではないかと思う。その辺の基本的なところがNPOにしたのだけれども、その良さがまだまだ活用できていないというのがある気がする。

議長(竹澤会長)

議題(5)についてほかに意見がなければ了承で良いか問うた。

《異議無し⇒了承》

議長(竹澤会長)

事務局からほかに報告等あるか問うた。

嶋田コーディネーター

「市民活動に関するアンケート」について報告を行った。

登録団体121団体に郵送し、現在87団体から回答をいただいております、回収率は71.9%となっています。現在集計中なので、このまま集計と分析を進めて、10月の運営協議会で結果を報告したい。

小川係長

次回の運営協議会の日程について、平成30年10月11日(木)か12日(金)の午後2時から今日と同じ旧レストラン会議室で開催したいが、都合はどうか。

議長(竹澤会長)

次回の運営協議会の日程について、委員に問うた。

《各委員に確認》

議長(竹澤会長)

委員に問うた結果、平成30年10月12日(金)に決定する。⇒後日、再調整を行い、10月19日(金)に変更する。

小川係長

会議資料等、まとめ次第、早めに通知する。議題については、支援センターの登録状況や利用状況、ミニ学習会などを予定している。

議長(竹澤会長)

会議の閉会を宣言した。